

## 2016 Annual Conference of the Asia-Pacific Society for Artificial Organs (APSAO) 参加印象記

国立循環器病研究センター人工臓器部&トレーニングセンター

武輪 能明

Yoshiaki TAKEWA



2016年8月27日、中国の天津 (Tianjin) において、アジアパシフィック人工臓器学会 (Asia-Pacific Society for Artificial Organs: APSAO) が開催された。APSAOは2013年に設立され、年次総会は今回で4回目、最初の2回は日本で開催された後、昨年は韓国で、今年は中国での開催となった。会場となったRenaissance Tianjin TEDA Convention Centre Hotelは、天津の経済技術開発区 (Tianjin Economic-Technological Development Area: TEDA) の中心にそびえる豪華なホテルであった。今年の大会長は、TEDAにある中国でも屈指の病院であるTEDA International Cardiovascular Hospital (図1) のXiaocheng Liu先生が務められた。

参加者は日本、中国(含む台湾)、韓国、米国、英国から多くの医師・研究者が集まり、総数約125名となった。日本からは、本学会のプレジデントである国立循環器病研究センターの妙中義之先生、東京都健康長寿医療センターの許俊鋭先生、西村隆先生、東京大学医学部附属病院の小野稔先生、茨城大学の増澤徹先生、東京医科歯科大学の岸田晶夫先生、木村剛先生、国立循環器病研究センターの武輪能明の8名が参加した(図2, 3)。

当日は午前9時から18時まで、TEDA International Cardiovascular Hospitalの講堂(図4)で、招待講演と一般講演を併せて4セッション20演題が、臨床医・研究開発者から発表された。中国での心不全治療や補助人工心臓 (ventricular assist device: VAD) の現状、artificial liver and kidney、小口径人工血管、自己組織生体心臓弁、世界での

VADや完全人工心臓 (total artificial heart: TAH) の趨勢、アジア太平洋地域における人工臓器開発の潮流について、活発な議論が繰り返された。セッションは全て1つの部屋で行われ、自分の専門分野以外でのアジア太平洋地域における現状なども知る事ができる良い機会になった。日本からは、増澤先生が磁気浮上VADの拍動駆動効果について、許先生が日本の左室VAD (LVAD) 現状と未来について、木村先生が小口径脱細胞人工血管について、武輪が自己組



図1 講演会場となったTEDA International Cardiovascular Hospital



図2 プレジデントの妙中先生(左)と大会長のLiu先生

### ■ 著者連絡先

国立循環器病研究センター人工臓器部&トレーニングセンター  
(〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1)  
E-mail. takewa@ncvc.go.jp



図3 学会場での記念撮影



図4 会場となったTEDA International Cardiovascular Hospital 講堂



図5 Ball RoomでのOfficial Dinnerにて生の弦楽四重奏



図6 日中韓他各国入り乱れての交流ダンス



図7 余興で中国チームが韓流ならぬ中国流？ 江南スタイルの歌踊を披露



図8 快晴の上空から北京市内を眺めながら中国を後に

織からなる生体心臓弁の開発について、岸田先生が脱細胞化歯周靱帯の開発について発表した。

夜にはホテル内のBall RoomでOfficial Dinnerが開催された。生の弦楽4重奏の調べに堪能した後、BGMのもと、円卓を囲んで中華料理と紹興酒に舌鼓を打った(図5~7)。酒が進むに連れよそよそしい雰囲気が消え去り、各国の参加者が自国の文化や医療制度、人工臓器の現状について口を開き、本音でぶつかり合う貴重な時間を持つことができた。大会長のLiu先生を始めとした中国の方々ホスピタリティも素晴らしく、それに乘せられて、日中韓がそれぞれの母国の歌や踊りを即興で披露する場面も見られた。自国以外の曲でも耳にしたことがあるものや親しみやすいも

のが多く、この地域はやはり密接に関わり合っているということを感じ、アジア太平洋地域全体での親睦を深めるとともに、人工臓器の分野において、ともに協力し普及や啓蒙に努め、またある時は競い合って発展していくことの重要性が再認識された(図8)。

来年は2017年10月28日、インドの南部ケーララ州の州都トリヴァンドラム〔Trivandrum、現在はティルヴァナンタプラム(Thiruvananthapuram)という〕で開催(The 6<sup>th</sup> Asian Biomaterials Congress, 2017.10.27~29と共催)される予定である。日本から多数の参加を期待したい。

本稿の著者には規定されたCOIはない。